

コード	103050108
記入日	H. 21. 6.10

事務事業途中評価表

作成年度	平成 21 年度
------	----------

課コード	108
課名	まちづくり推進課
課長名	竹中次郎
担当者	荒木順一郎

評価対象事業名称	新生活交通確保支援事業	事業種類	継続事業
		事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	1	政策名称	にぎわいを創る地域交流の促進	款コード	7
施策コード	103	施策名称	しまを支える交通基盤づくり	項コード	1
基本事業コード	10305	基本事業名称	バス交通の充実	目コード	1
事務事業コード	1030501	事務事業名称	地区交通整備事業費	細目コード	1029
関連計画	法令・条例規則等				

計画 (PLAN)		※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。							
対象: 誰、何を対象にしているのか			対象指標: 対象の大きさを表す指標						
(対象1) 交通環境整備			(対象指標1) 2箇所						
(対象2) 新上五島町交通体系再編計画書			(対象指標2) 1部						
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入			活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)						
(全体)		(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)		
町が運営する航路を陸上交通への切り替えを図り、財源的な負担を増やさずに将来的な町内全体の地域交通の安定した利便性を高めるための、計画書を作成する。		・陸上交通切り替え地区の待合所建設と試行運行の実施、停留所表示板の作成、地区懇談会の開催、協議会開催による、新上五島町交通体系再編計画書の作成。	実証実験		2	100%	運行回数実績÷運行	平成20年度	
			実証実験		1箇所	100%	予定回数	平成20年度	
			①	(達成率分析)	町交通体系再編協議会の方針に基づいて、実証実験(試行運行)を実施した。1箇所(大平～若松間)				
②		(達成率分析)							
目的: 何をしたいのか			成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)						
町交通体系再編協議会において、町の交通状況についての、現地状況調査、地区アンケート調査、地区懇談会、実証実験を経て、町全体の交通網のあり方の提案である『新上五島町交通体系再編計画書』を作成し、沿線の環境整備を行う。			(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)		
			計画書策定		1件	0%	計画書策定件数÷計	平成20年度	
			計画書策定		1件	100%	画書策定 予定件数	平成20年度	
			①	(達成率分析)	町交通体系再編協議会において、その方針に基づいて、各種調査等及び特定の地区の試行運行を実施し、計画書の策定を行った。事後評価において、評価する。				
②		(達成率分析)							

実施 (DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。											
	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 箇所	2	2	1	1	1					
	②										
成果指標	① 件	1	1		1	1					
	②										
総事業費C (A+B)		千円	8,552	8,552	3,426	5,126	5,126				
直接事業費 A		千円	4,352	4,352	626	3,726	3,726				
人件費 B		千円	4,200	4,200	2,800	1,400	1,400				
内訳	従事職員数	人	0.6	0.6	0.4	0.2	0.2				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円	2,176	2,176	313	1,863	1,863				
	起債	千円									
	その他	千円	2,176	2,176	313	1,863	1,863				
一般財源		千円	4,200	4,200	2,800	1,400	1,400				

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	より少ない経費でより効果的な交通体系の方針を示すべきである。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	近年の交通環境を取り巻く社会情勢に応じた施策の見直しが必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由	幅広く町民の理解を得るための住民説明会を開くので、適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	交通再編計画を策定した。
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	平成20年度の早い時期には、計画書を完成させ、実証実験と環境整備を県の補助事業を活用して行った。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由	財政再建が遅くなる。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ● できない	理由	類似事業がない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	● できる ● できない	理由	適切な見積りにより削減できる。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由	最小の人員で行っており削減はできない。
	受益者負担は適正ですか。	● はい ● いいえ	理由	実証実験においては、応分の負担である。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	計画通りなので、現在のところ見直す必要はない。
		有効性	有効な交通事業を模索するためには、必要である。
		効率性	計画書に基づいて、交通事業費の削減と有効活用を図る。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおりに
		有効性	今後は交通体系再編計画の具体的な事業実施をすることで、住民生活に支障をきたすことなく、交通体系を整備していくこと。
		効率性	交通体系再編計画に基づき効率よく事業を実施していくこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。